

第4回大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 意見一覧

番号	意見	総合政策課回答
【人口ビジョン案について】		
1	(以下感想です) ・推進委員会の指摘を受けて、よく検討されていると思います。	
2	・人口増加を続ける町であり、大変恵まれていると思います。(第1期の成果を含めて)	
3	・社会人野球のホンダや大津高のサッカー部の活躍は町のイメージアップに寄与している。	
4	・全体的にはわかりやすくまとまっていると思うが、1点修正希望点があります。① P5の人口ピラミッド図で、それぞれのグラフの左右と凡例の左右が逆になっているのが気になる。凡例は全国(女性)→大津町(女性)→全国(男性)→大津町(男性)となっているが、グラフは左が男性で右が女性になっている部分です。	→凡例もグラフに合わせ、男性が左側、女性が右側になるよう修正します。
5	・また、この人口ビジョンの位置づけが分かりにくいように感じます。この人口ビジョンを目指し達成することで大津町の「何が」「どのように」なるのか？がよくわかりません。	→国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改定版)」では、人口減少を「静かなる危機」と表現し、将来的に経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、国の持続性すら危うくするものとして警鐘を鳴らしています。 本町の人口は、現在のところ増加を続けていますが、地域によっては高齢化・人口減少がかなり進んでいます。また、町全体としても、仮に出生率がこのまま上昇せず、若者の流出傾向も継続した場合(=人口ビジョンp33の「参考推計」)、2040年頃をピークに人口減少の段階に入ることが予想されます。加えて、生産年齢人口の減少はこれより早い時期から進行しますので、そう遠くない未来に今の大津町を支えている活気が失われてくることも可能性として想定されます。
6	・人口ビジョンを達成するための施策として「創生総合戦略」があると理解していますが、そもそもこの人口ビジョンを達成することの効果を知らしめることも必要かと思いがが。	逆に、人口ビジョンの将来展望を達成できれば、30年後、40年後においても大津町が今の活気を持った姿であり続けることも可能です。 このような将来予測や課題を町民の皆様と共有し、いま必要な地方創生の取組みについて考える基礎となるのが人口ビジョンであると考えております。 なお、上記「参考推計」の説明については、人口ビジョン本文から漏れておりました。お詫び申し上げますとともに、追記させていただきます。
【総合戦略案について】		
1	・横断的取組のところについて、せっかく2ページに分けて、エリア対応と広報対応を掲げているので例えば、それぞれの余白を使って、 ○北部、中部、南部のエリア分析、戦略立案を行うプロジェクトチームを立ち上げる ○広報を強化するプロジェクトチームを立ち上げる(当初は庁内→町内有志を加えたチームへ) といった形で、やる気を明記できませんか？ その位やらないと、絶対に何もしないまま4年が過ぎます！	→分野横断目標の2点については、今後プロジェクトチームにより取り組みを推進します。該当ページについては、記載内容を検討し修正します。
2	・今後もTSMCの進出や空港アクセス鉄道の再検討など更なる町の発展にフォローの風が吹いている状況下にある。この機を利用して、各界各層から魅力ある「おおづ」の実現に向けた取り組みを実践して欲しい。	→関係各団体とも情報を共有し、協力しながら取り組みの推進を図っていきます。
3	・振興総合計画と総合戦略の位置づけもよく分かりました。職員や町民へのモチベーションの持続をお願いしたい。	→モチベーション持続のためにも、定期的な情報の発信に努めます。
4	わかりやすく平易に伝えようとする印象はよく伝わりました。	
5	・P19-22 第3章で第1期の検証で、その全体図(一覧表)があると良い。(ここで初めて興味を持って読む人への配慮) また、目標値へ対しての達成と未達成の色付けがあるとわかりやすいと思いましたが…	→第1期総合戦略のKPI一覧については、まとめ方や掲載の仕方を検討します。
6	・P29 戦略体系の各項目に、それぞれのページがあると良いと思いました。	→該当箇所を修正します。
7	・P30以降、目標値と先の人口ビジョンが関連していると想定されますが、その目標値の根拠(もしくは理由)についても知りたい。	→「生産年齢人口」については、若者を中心とした人口流入を増やすための指標として、「出生数」は子どもの数や出生率を上げるための指標として、「暮らしやすいと回答する割合」は、転出減のため大津に住み続けてもらうための環境整備の指標として、「転入者数」は、新たな転入者を増やすための指標として設定しました。

番号	意見	総合政策課回答
8	<p>・P36 図12の結婚していない理由のトップが「適当な相手に巡り合わない」ですが、基本方針ではスルーされていますが…。</p>	<p>→「適当な相手に巡り合わない」との回答においては、本人の「自分に合った相手、自分の理想とする相手がない」との考えによる部分が大きく、自治体の施策で直接的に対応するのは難しい部分と考え施策は掲載しておりません。 また、間接的ではありますが、結婚前の若い世代が流出していることも一因と推測します。他の分野の施策において記載しているような若い世代の流入について取り組むことで、より適当な相手に巡り合う確率も増えると考えています。</p>
9	<p>・P42 「おおづ」の機能を高める。とありますが、機能とは具体的に何かわかりにくいですね。他の項目(方針)が具体的なのにここだけ抽象的な印象を受けました。</p>	<p>→ “「おおづ」の生活機能を高める” に変更します。</p>
10	<p>・基本目標2における数値目標 (P30) が合計特殊出生率ではなく、出生者数なのはなぜか？</p>	<p>→「合計特殊出生率」の場合は、15歳～49歳までの女性の人口など、計算において様々な要因が影響します。よって、結婚・出産・子育ての施策に、より直接的な指標である「出生者数」を目標としました。</p>
11	<p>・空き家バンクの登録数 (P46) は多い方が良いのか？紹介もしていくと思うので、登録数よりも契約率のような指標の方が良いかなと感じました。</p>	<p>→空き家バンク制度については、物件を貸したい側から借りたい側への情報提供が主な内容となっており、実際の契約に向けた調整については、担当となった不動産事業者が自らの業務として行います。ご指摘のとおり、空き家バンクについては物件登録数が多いほど良いというものではありませんが、今回は空き家バンク制度がより活性化するための目安となる目標として登録数を設定しています。</p>